

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(1階ユニット)

事業所番号	2795000245		
法人名	(株)フレンド		
事業所名	グループホームフレンド東大阪		
所在地	東大阪市小若江4-6-7		
自己評価作成日	平成28年3月15日	評価結果市町村受理日	平成28年4月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成28年4月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

オープンから毎年、「夏祭り」を開催しています。季節ごとの催しは色々実施していますが「夏祭り」は特に、入居者様も朝から気合いを入れて浴衣に着替え家族様と一緒に楽しい1日を過ごされます。準備に大変な時間と労力があるが、後々写真を見ると笑顔であふれたものばかり、スタッフや家族様、関係者様の協力を頂き、来年も「やるぞ」と思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昨年始めの経営母体の変更により、手薄だった職員の補充や人材育成・資格取得、待遇改善等の運営バックアップ体制が強化された。管理者は現場の統括業務の専念から余裕が生まれ、地域密着型サービス事業の管理者としての本来業務の遂行が出来るようになった。根気強い説得の結果、念願の自治会長の協力が得られるようになり、今後地域との連携強化が期待される。開設以来、夏祭りに代表される季節行事を大事にし、利用者を主体に家族、職員、協力医等関係者が一丸となって盛り上げ、事業所の一体感を醸成している。管理者と職員とのコミュニケーションは良く、業務上のことだけでなくプライベートな相談まで出来る関係にあり、職員間でもベテランによる新人の指導協力関係も良く出来ている。医療連携も進んでおり看取りの実績が4件あって、利用者・家族の安心と信頼に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の中でその人らしく暮らす」この理念の元その人らしい生活が出来る様「どうしたら」とか「これでいいのか」とか日々葛藤しながら支援している。	「地域の中でその人らしく暮らす…」というホームの理念に沿って、職員はその実践に向けて夫々の年間並びに月間目標を作り、日々努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	冬場の「愛ガード」の参加は殆ど出来ず地域との繋がりが減少しつつある。	この4月から自治会に入会し、会議にも出席して地域との関わりを一層深めている。春の花見、夏祭り、秋の運動会、盆踊り、近畿大学の学園祭パレードの見物に加え、今年から近くの幼稚園への訪問を企画し地域との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の会議に参加し当施設の紹介や状況を説明する機会があり、十分に理解して頂けたかどうかかわからないがこれからも、発信していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	包括の方々に相談し、色々と提案して頂き即実践し一つずつ解決してきている。会議での意見をしっかり受け止めてサービスに繋げたい。	従来、奇数月の最終火曜日に開催してきたが地域代表の参加が得られなかった。根強い説得と土曜開催に変更して、自治会長の参加が得られるようになった。これを機に、更にメンバーの増加と会議の内容充実を期待する。	念願の自治会長の参加を機に、民生委員、相談員、ボランティア、同業管理者等の知見者に参加を求めると同時に会議の議題(ホームの課題等)を事前通知して活発な意見交換の場として充実するよう期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者の方と密に連絡をとったりという状況ではないので今年は協力関係を築く様取り組みたい。	地域福祉の窓口として高齢介護課と西福祉事業所の職員とは、判らない事や困難事例について相談しアドバイスを受けている。ホームの体制整備が進んできたので、今後行政との連携をより深めていく予定である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が身体拘束をしないケアを目指し日々、向上出来る様勉強会などの機会を増やしている。	マニュアルに基づいて毎年研修を行い、身体拘束に該当する具体的事例を正しく理解して拘束をしないケアに取り組んでいる。安全上玄関を施錠しているが、職員と話し合って見守りし易い昼食時の1~2時間開放するようチャレンジを検討中である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	最近の衝撃的な事件をきっかけにスタッフ間でもその話が出る。言葉の暴力もある事に気づかされ、話し合いの結果虐待を理解し虐待を見過ごさない事を確認する事が出来た。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様の状況がこの問題を提議してくれるきっかけとなり職員共々勉強する機会を得た。 他入居者様も活用出来る様支援するも長い時間を要している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族様や御本人様にはしっかり説明と納得を頂き、疑問点など気になる事があれば随時対応させて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、苦情箱を設け常に耳を傾けてスムーズに対応出来る様、取り組んでいる。	家族の訪問時に介護記録や診療記録を基に利用者のホームでの暮らし振りを説明し意見・要望を聞いている。遠方で訪問の少ない家族にはフレンド通信を送り、意見要望を電話で個々に聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングで意見を聴く機会を設けたり、直接管理者との意見交換も多々あるのでその後、了解、受諾頂き、たくさん運営に反映させている。	管理者と職員は日頃から何でも話せるフラットな関係にあり、業務上の事は勿論プライベートな事まで相談し合っている。管理者は意見・提案を積極的に本部にも相談し、運営に反映するように取り組み、職員の信頼を得ている。理念に沿った個別目標の設定やイベントの開催等。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	共通した知識を持ち、評価を持って向上心が持てる様働きかけている。 職員には定期的に日常の悩みや意見を聴く機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会などの取組を行っているがもっと外部に目を向け新しい事に挑戦していきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	東大阪の連絡会に参加させて頂いています。 もっと回を重ねて勉強のチャンスを増やしたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接に立ち会い、御本人様の声をしっかり聴きご本人様に安心感を持って頂ける関係を築けるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の意見やご希望にしっかり耳を傾け 安心してお任せ頂けるよう信頼関係を作る努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	優先されるべき順位を考え家族様も納得される支援をする。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊厳を持って支援し、時には学びともに楽しみや喜びを分かち合える関係になれるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様と話し合い、ともに支えあう関係を築いている。家族様の本音を自然に引出し支援に活かす努力をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様の了解の元、制限する事なく自由に面会に来て頂きたい旨、お伝えしている。	開設当時に比べると少なくなったが、友人や近所の知人、親戚の訪問を温かく迎え、馴染みの関係が継続するように支援している。以前から行きつけの喫茶店や店への買い物、墓参り等にも同行し支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活を共にするたくさんの仲間がいる事を理解して頂き安心感を持って生活し、入居者同士の関わりに介入している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も関係の維持をはかり、継続して相談して頂ける関係を作っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	不安になられたら、「どうしたい」「何が」等様々な場面を想像して寄り添い意思を分かろうと努めている。	アセスメントシートを活用して、日々のケアの中でこれからの暮らし方の希望や意向を聞き出している。特に、散歩や入浴時など、心のゆったりした個別ケアの時に率直な意向が聞けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	其々の生活環境、生活歴などをスタッフ全員で把握共有し介護サービスに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の流れの中での変化や表情、顔色、行動などの違いを、観察する。一人ひとりが違う人間だという事に気づく事が支援に繋がる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファやミーティング等の場面において個々の課題をどう支援していくべきか、専門職の意見を聴き、充分話し合い計画作成している。	介護記録、診療記録やモニタリングの結果と本人・家族の要望を基に計画作成者を中心に関係者がサービス担当者会議を開いて話し合い、利用者の現状に即した介護計画を作成している。状況の変化があれば都度見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケース記録に細かい気づきもすべて記録し誰もが情報の共有が出来る状況で介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われなない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療によるディケアに去年より多くの入居者様が参加されている。 自立度の高い入居者様が中心であるが、OT、PT等が常駐されており本人はもとより家族様にも喜んで頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	グループホームの認知を高めるよう地域との関わりを増やす取組をしたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用開始前のかかりつけ医に通院の介助をしたり家族様の希望による訪問診療を受診するなど適切な医療を受けて頂いている。	本人家族の意向を尊重しているが、現在は家族の希望で全員協力医の訪問診療、内科は月2回、歯科は週1回受診している。精神科等専門医には家族の協力で通院・受診しているが困難な場合は職員が代行・支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療による看護師との関係を密にし、絶えず相談し意見を聴くなどして適切な受診に導く手順を踏んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者様の情報を密にし早期の退院への取り組みに着手し当施設への復帰を協議して取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した入居者様への対応は入所時に充分話し合い、家族様、御本人様の意向を大切にして対応しどう支援すべきかチームとして取り組んでいる。	契約時に重度化や終末期のケアに関するホームの指針について本人・家族に説明し、同意を得ている。その後は状況に応じて、医師を交えて家族と話し合っ本人にとって最も望ましい対応・支援をチームとして取り組むようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルにて全員どうすべきかの判断は周知している。初期対応の手順においては実践力は身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網を作成し定期的な避難訓練を実施している。 火災避難訓練を実施し近隣の方々の理解を求めていく。	年2回の消防・避難訓練の他地震、水害等の災害を想定した自主訓練も定期的実施するようになっている。今後、自治会長と地域包括職員の協力を得て、運営推進会議の後出席者も参加した訓練を考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	御本人のプライドを傷つけない様、声かけには気を付いている。	人格・誇りやプライバシーを損なわない言葉遣いや対応に心掛けている。日頃、気が付があった場合は管理者だけでなく職員同士が注意し合うようにしている。個人情報に関する書類は、鍵のかかる書庫に保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定出来る入居者様が多いので、思いや希望は表出し職員にも伝わっているが、支援にもう少し力足りずに感じる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	優先すべき事であっても上手く事が運ばない状況も多々ある。 希望に沿った支援を心がける。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で出来る様に声掛けや支援をしている。 その人らしさを考えて対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立表を表示しても反応は少ないのでこちらサイドから声をだして反応を見ている状況である。 年々一緒に出来る事も少なくなってきた。	朝食は職員が食材を調達し調理している。昼食と夕食は業者より弁当の形で配達されるものを利用者の状態に合わせて分量や形態を調整している。利用者は出来る範囲で準備・後片付けを手伝っている。誕生者が居ない月はおやつレクとしてぜんざいやホットケーキと一緒に作ったりして楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の対応に合わせて食事量やバランスなど配慮して対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1週間に1回の歯科往診と毎食後の口腔ケアは充実している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	しっかり排泄パターンを把握して対応しているが、失敗も多く自立が遠のく状況である。	排泄チェック表で個々の排泄パターンをしっかり把握して、タイミング良く声かけ誘導してトイレでの排泄の自立に向けた支援をしている。昼間はオムツの使用をしないように努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や水分摂取など出来る限り声掛けして対応しているが予防できない時もあり主治医と相談し服薬や坐薬の対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	介護度が高いため入浴日を決めている。個々に沿った支援は出来ていない。	毎日可能であるが平均2~3回入浴している人が多い。浴槽は3方向から介助可能であり、安全・安心である。菖蒲湯やゆず湯と入浴剤で季節感を味わい楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご自分のタイミングで休んで頂く声掛けをしたり、持病をお持ちの方にはお昼寝を取って頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を個々に管理して薬の理解はしている。同時に副作用や目的に関しても理解し服薬管理をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カラオケが好き、ゲームが好き、ドラマが好き等、個々の嗜好になるべく合わせる様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物は頻繁に出かけるが希望に沿った外出は出来ていない状況である。	天気のよい日は買い物を兼ねて近くのスーパーやお店、公園、神社によく出かけている。新緑や紅葉を見、太陽の光を浴びすがすがしい風を受けて五感を刺激する事によって季節感を感じるように努めている。家族の協力で外食やお墓参り行く人も居る。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の代行や同行支援は可能であるが、お金を所持する事は不可能である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様からの電話の取次ぎや手紙の代筆等それらのやり取りが出来る様支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地よく過ごして頂けるように採光や騒音に配慮し家庭的な雰囲気作りを心がけている。	リビング兼食堂は広くて明るい。心地よく過ごせるように大型テレビの前にソファが置かれ、家庭的な雰囲気の中で皆が寛いで団欒している。壁には桜の花や鯉のぼり等季節を感じる作品の飾りつけが施され居心地のよい共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルを配置し、好きな場所で過ごして頂けるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様1人ひとりに対し見慣れた、使い慣れた思いでの家具を自由に置いて頂いている。	各居室のドアには名札の横に満開の桜の色違いの塗り絵が飾られ季節感を醸し出している。部屋には大きなクローゼットが備え付けられており、衣装ケースや小物入れなどが収められている。使い慣れた鏡台やテレビ、人形、縫いぐるみ、家族の写真が小奇麗に飾られて居心地よく過ごせる工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は自由に移動出来る広々とした空間があり季節を感じて頂ける工夫が随所であり、各居室の表札が目印になっている。		